令和８年　１０月２３日

令和8年度前期学校評価アンケート　結果と分析

京都市立北総合支援学校

令和８年度　前期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました。

◇　実施期間　　令和８年９月７日（月）～９月１８日（金）

◇　対象者・回答率

	教職員	保護者			児童生徒		
		小	中	高	小	中	高
対象者数（人）	１６４	９２	６４	８５	９２	６４	８５
		２４１			２４１		
回答者数（人）	１６３	６５	４２	４３	１３	１７	５４
		１４９			８４		
回答率（%）	９９%	７０%	６６%	５１%	１４%	２７%	６４%
		６２%			３４%		

◇分析・表示方法

- ４つの選択肢（教職員：「よくできている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」　保護者・児童生徒：「はい」「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた“肯定的な回答”の数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- 成果や課題を把握しやすいように、９０%以上を**水色**、８０%未満は**黄色**で表示します

教職員・保護者

（０）**全体**　※大項目内の平均値

めざす学校像	教職員(昨年度)	保護者(昨年度)
（１）子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校	９８％(97)	９１％(97)
（２）子どもたちが楽しく学ぶ学校	９７％(95)	８５％(85)
（３）保護者からも地域からも信頼される学校	９９％(97)	９１％(93)
（４）笑顔いっぱいの学校	９７％(95)	９４％(97)

設問に関しては、昨年度と同様、学校経営方針の「めざす学校像」から質問項目を設定し、「学校全体としてどうか」を尋ね、客観的な視点で且つ直感的に答えやすいような設問にしています。教職員の設問に関しては、昨年度と同様に、より細やかな視点から評価できるような設問にしています。

保護者の回答率は昨年度と比較し、やや減少しました（昨年度前期70％）が、ここ数年の回答率と比較すると増加していると考えられます。教職員については、回答率90％以上を保っております。

全体として見ると、どの項目も肯定的な回答がほとんどでした。これは、本校の取組が概ね、教職員からは自信を持って取り組んでいる、保護者からは好意的に受け取られている結果だと考えられます。「(2)子どもたちが楽しく学ぶ学校」については、保護者の回答が他の項目と比較して、数値が下がっております。これは後でも述べますが、否定的な回答が多かったというよりも、「わからない」の回答が他と比較して多かったためです。

（１）子どもにとって安全・安心で生き生きと活動できる学校

教職員(昨年度)		保護者(昨年度)	
１ 校内や教室は、清掃され、衛生的である	９７％ (96)	１ 学校は、子どもが安全・安心に学べる場（衛生面、校内環境面、防災面等）になっていますか	８９％ (96)
２ 学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故対策、防災対策等を実施している	９６％ (96)		
３ 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっている	９９％ (98)	２ 学校は、子どもの健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組を適切に行なっていますか	９３％ (98)

この項目では、全ての設問において、大多数の教職員が肯定的な評価をしています。一方で、保護者の設問１については、昨年度と比較し、数値が大きく下がっています。これは、ほとんどの保護者は肯定的な回答をしているものの、「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」「わからない」との回答が数件あったことが影響しています。原因として、７月にあった生徒が校内トイレにいることに気づかず学校を施錠した件が大きく関係しているものと考えています。保護者の自由記述にも、７月の件を受けたご意見をいただいています。学校が強化した対策等は保護者の皆様に周知しましたが、引き続き、子どもたちが安全な環境で安心して学び、健康に帰宅できる取組や環境整備を進め、信頼の回復に努めていく所存です。

教職員の設問３、保護者の設問２については肯定的な回答が多くを占めています。多くの子どもが指導者や友達とのやりとりを通じて、自身の体調に合わせたり、自身のペースと向き合い考えたりする力を高めている様子があります。このような姿が、健康維持や体力づくり、心の安定に関する取組についての高評価につながっているのだと考えられます。

（２）子どもたちが楽しく学ぶ学校

教職員(昨年度)		保護者(昨年度)	
４　学校は、子どもに関する願いと実態をもとにした目指す姿の実現に向けて教育内容を設定し、指導計画を立て、実施に努めている	９８％ (95)	３　学校は、子どもの目指す姿の実現や可能性の拡大のために、指導計画や指導内容を適切に設定し、子どもが楽しく学べる授業や行事等を展開していますか	９３％ (94)
５　学校は、子どもが主体的に考え、工夫し、他者との関わりの中で、生き生きと楽しく学べる教育活動の推進に努めている	９６％ (96)		
６　学校は、子どもの可能性が広がり、自己有用感が高まるように、役割活動や行事等での活躍の場を適切に設定している	１００％ (98)		
７　地域資源を活用した教育活動が、子どもの主体性や社会性の育成につながっている	９４％ (92)	４　学校での地域資源を活用した学び（地域の施設や店舗での体験交流活動等）が子どもたちの成長につながっていると思いますか	８２％ (85)
８　学校は、子どもたちの成長のために、ＩＣＴを活用した授業や取組を適切に実施している	９６％ (95)	５　学校は、子どもたちの成長のために、ＩＣＴを活用した授業や取組を適切に実施していますか	７９％ (76)

教職員・保護者ともに、全体として本校の学習について高い評価となっております。また教職員の設問４・５・６では、多くの教職員が高い評価をしています。「個別の包括支援プラン」に基づいた学習や取組を充分に実施していると捉えている結果だと考えます。保護者からの自由記述では、個に応じた支援や教材教具や学習内容の工夫等に感心する意見が複数ありました。本校が実践している授業や取組を保護者の皆様にも肯定的に受け入れていただいている証であると考えます。

しかしながら、保護者の設問４と５の地域資源やＩＣＴを活用した教育活動については、他の設問と比較して数値に大きな差があります。これは「わからない」と回答する保護者が一定数いるためです。特に、保護者の設問５については、９６％の保護者が肯定的な回答をしていますが、約２割の保護者が、「わからない」と回答しています。保護者からの自由記述にも「学校に行けない親が多い中で、質問が難しいのでは？」とのご指摘がありました。具体的な実践やそれに伴う児童生徒の成長を連絡帳等で発信していくことで保護者の皆様にも取組の効果を感じていただく工夫が必要であると考えます。

（３）保護者からも地域からも信頼される学校

教職員(昨年度)		保護者(昨年度)	
９ 学校は、保護者や地域社会への情報共有（広報活動・参観など）を適切に行なっている	１００％ (99)	６ 学校は、保護者や地域社会への情報共有（学校だよりやすぐーる等による学校の様子の発信、参観日の設定等）を適切に行なっていますか	９４％ (98)
10 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接している	９５％ (95)	７ 教職員は、適切な言葉遣いや態度で子どもや保護者に接していますか	９３％ (95)
11 教職員は、子どもや保護者の思いを受けとめ、誠実に対応している	９９％ (99)	８ 学校は、子どもや保護者の思いを受けとめ、必要に応じて保護者・福祉・医療・行政などと連携して対応していますか	８５％ (87)
12 学校は、保護者・福祉・医療・行政などと適切に連携して、状況や課題を把握し、対応している	９８％ (96)		

この項目についても概ね肯定的な評価となっております。これは、保護者や児童生徒に対して、教職員が普段から真摯に対応している結果だと考えます。保護者の設問８については、約１割の保護者が「わからない」と回答しているため、他と比較して数値が下がっています。これは、他機関と積極的に連携を取るような事態が生じていない家庭が一定数あるということだと考えられます。「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」と回答している保護者の学部・学年についても、偏りは見受けられませんでした。子どもの成長に伴い様々な機関と連携が必要となってきますが、教職員の設問１１・１２の数値は、高い数値になっています。「わからない」と回答した保護者が、今後連携が必要になってきた場合に、自信をもって対応できるものと考えます。

（４）笑顔いっぱいの学校

教職員(昨年度)		保護者(昨年度)	
13 学校は、明るい雰囲気で、教職員や子どもの笑顔があふれる場である	９８％ (98)	９ 学校は子どもや教職員の笑顔があふれる場となっていますか	９４％ (97)
14 教職員は、人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている	９７％ (96)		
15 学校は、教職員が働きがいを感じられる職場づくりを進めている	９３％ (91)		

大多数の教職員・保護者が、本校は明るい雰囲気で笑顔があふれる学校だと感じていることが分かる結果となりました。めざす学校像に挙げている「笑顔いっぱいの学校」がほぼ達成されている証と捉えています。今後も笑顔があふれる学校であり続けられるよう取組を進めてまいります。

教職員の設問１５では、ごく少数の教職員が「あまりできていない」「できていない」と回答しています。昨年度と比較すると数値は微増しておりますが、教職員の自由記述には「人手が足りない」「業務が定時内に終わらない」などが挙がっております。そのような状況があるということを学校全体の課題として把握した上で、多方面から解決策を探ってまいります。また、教職員が同僚や管理職に気軽に悩みや相談を打ち明けられる風通しのよい職場環境をつくり、これまで以上に働きがいを感じられる職場を引き続き目指していきたいと考えます。

（５）自由記述（保護者）

多くの高評価や温かいご意見をいただき、今後の励みになります。ご指摘や今後の改善点もいただいております。今回いただいた意見については、校内で検討し、より良い学校づくりに反映してまいります。

（いただいた意見の中から一部、要旨抜粋して記載しております）

●配慮の行き届いたご指導を賜り、毎朝子どもが嫌がらずに登校できていることに感謝しています
●子どもの特性を理解した対応を心がけてくださっていることで、安心して通うことができています
●今まで出来なかったことがある日突然出来るようになっていたりするので、先生方がいろいろなことを教え導いてくださっていることを感じます
●一人ひとりの子どもに丁寧に向き合ってくださる先生方に感謝しています
●先生方も心身ともにご無理のないよう願っています
●いつも新たなチャレンジや気づきをありがとうございます
●教職員の方々がいつも元気に挨拶をされ、とても気持ちが良いです
●色々工夫や寄り添いをしていただいているお姿や校内の掲示や声掛けを見聞きしています。先生方の御蔭で子ども達が安心して学べる世界が創られています
●プリントやすぐーるでいつもとても丁寧に詳しく迅速に発信をしてくださるのでとても助かっています

▽安全面を徹底してほしい。７月に起きたことに対して保護者に説明が全くなっていない
▽説明会をする責任がある事案をほったらかしにされている
▽夏の下駄箱前（玄関口）は熱気がこもっているため、大型扇風機を常時回すなどの配慮が必要
▽すぐーるの通信障害の際、とても不安になった。今はすぐーるでしか分からない情報もあり、連絡方法もすぐーるに委ねられている部分もあるので、学校側ももう少し保護者の不安や困りに寄り添った対応をお願いしたい
▽（夜間や休日）緊急時の学校への連絡先が必要だと考えます
▽緊急時は当日中に警察や保護者から学校に連絡が入るようにできないか
▽午後設定（給食も含む）の授業参観もお願いしたい
▽生徒への対応が不適切で不信感しかない。チーム学校が正しく機能するように改善してほしい
▽クラス替えの際、子どもの特性を把握して、教室に置く物や広さを考慮して割り当ててほしい
▽屋外・グラウンドでの活動をもっと取り入れて運動量を増やしてほしい
▽学校祭、先生方の負担を考えると仕方ないが、以前の形式の方が良かった
▽肢体不自由で医療的ケアがあるが、校内だけでなく校外に出て実際に体験する機会を設けてほしい

児童生徒

（０）全体　※大項目内の平均値

めざす子ども像	(昨年度)
（１）健やかな身体をつくる子ども	８７％(93)
（２）自分の思いをのびのびと表現する子ども	８３％(85)
（３）他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども	９４％(92)
（４）自分のできることを発揮する子ども	８９％(91)

（１）健やかな身体をつくる子ども

１　からだの学習やエクササイズ、ダンス、ランニングなどで、健康なからだ作りをしていますか	８８％(94)
２　学校や教室の掃除や片付けをしていますか	８７％(91)

（２）自分の思いをのびのびと表現する子ども

３　自分のやりたいことや頑張りたいことを周りの人に伝えていますか	８２％(87)
４　心配なことや不安なことがあると、先生に相談していますか	８５％(83)

（３）他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども

５　友だちと仲良く過ごしていますか	９６％(91)
６　家族や友だち、先生を大切にしていますか	９３％(94)

（４）自分のできることを発揮する子ども

７　学校の学習で「できた！」「やった！」と感じていますか	９２％(93)
８　新しいことにチャレンジしようとしていますか	８７％(89)

全体を通して、すべての項目が８０％を超える結果となっていますが、設問１の項目は、昨年度と比較するとやや減少しています。昨今の暑さによる影響から、体育館やグラウンドで大きくからだを動かせない日が続いたことによる子ども達の思いが表れているものと推測しています。自由記述では「ランニングは外でしたい」と答えている子どももいました。特に夏は、運動量をどのように確保していくかが課題と思われます。屋内であっても、子どもたちがのびのびとからだを動かすことができるような工夫が必要だと考えています。

大項目２は、他と比べて少し数値が低くなっております。特に高等部の回答で「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」が目立ちました。それに関連した教職員の設問１１「教職員は、子どもや保護者の思いを受けとめ、誠実に対応している」については９９％と高い数値が出ています。本校には、表出することが難しい、伝えることを我慢してしまう等、コミュニケーション面、心理面で課題を抱える子どもが多数います。教職員と子どもの乖離を少しでも小さくできるよう、教職員はこれまで以上に、子ども一人一人に対して真摯に向き合い丁寧に対応し、子どもたちの心の安定を図れるようにしていきたいと考えます。